

4 中部

北陸新幹線金沢駅開業に伴う各地の動きが活発化

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

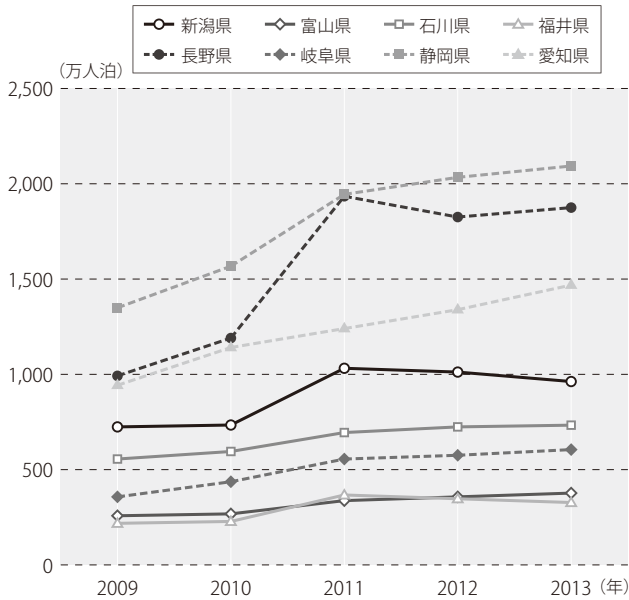
観光庁「宿泊旅行統計調査」によると13年1月から12月の中部各県の延べ宿泊者数については、中部全体では8,457万人泊となり、前年比2.6%増(213万人泊増)となった。延べ宿泊者数が増加したのは、愛知県(前年比9.1%増)、富山県(同5.6%増)、岐阜県(同3.6%増)、静岡県(同3.1%増)、石川県(同2.8%増)、長野県(同2.5%増)となっており、減少したのが福井県(同8.1%減)、新潟県(同5.2%減)となっている。

一方、外国人延べ宿泊者数については、中部全体では327万人泊となり、前年比36.4%増となった。増加したのが長野県(前年比88.4%増)、石川県(同71.4%増)、岐阜県(同60.2%増)、富山県(同45.0%増)、愛知県(同21.5%増)、福井県(同14.3%増)、静岡県(同13.3%増)、新潟県(同10.0%増)となっており、中部では全県が前年を上回ることであった。

宿泊者の国籍別の構成については、富山県、石川県、長野県、岐阜県、福井県、新潟県は台湾が最も多く、愛知県、静岡県は中国が最も多くなっている。岐阜県は、台湾の次にタイが多くなっているのが特徴的である。

中部において外国人延べ宿泊者数の伸びが最も大きかった長野県については、関連資料によると、13年は官民一体で

図IV-4-1 延べ宿泊者数の推移(中部)

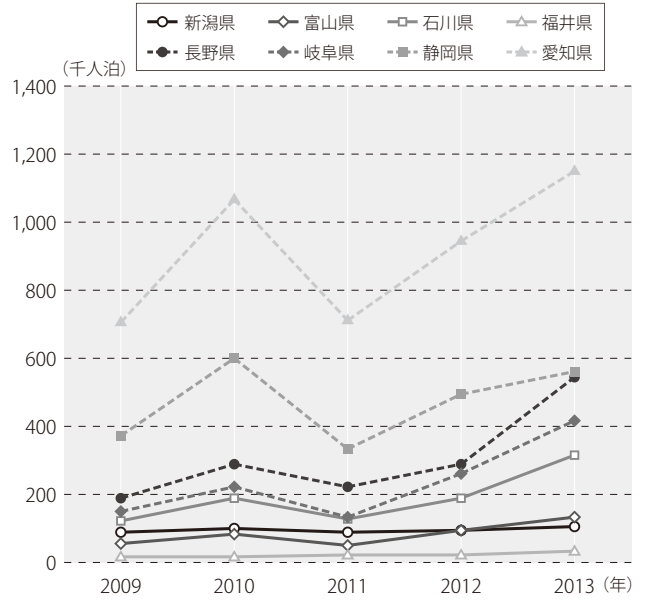


	2009	2010	2011	2012	2013 (年)
新潟県	728	734	1,037	1,020	968
富山県	258	274	346	362	382
石川県	558	594	698	724	745
福井県	221	226	365	354	325
長野県	986	1,192	1,938	1,829	1,875
岐阜県	360	437	558	583	604
静岡県	1,339	1,563	1,941	2,029	2,092
愛知県	940	1,144	1,241	1,343	1,465

※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする  
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成25年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-4-2 外国人延べ宿泊者数の推移(中部)



	2009	2010	2011	2012	2013 (年)
新潟県	87	99	91	97	107
富山県	57	85	51	94	136
石川県	122	188	126	190	326
福井県	16	20	24	27	30
長野県	187	289	224	288	543
岐阜県	153	223	134	260	417
静岡県	372	601	334	494	560
愛知県	704	1,070	713	945	1,148

※～2010.3 従業員10人以上の宿泊施設を調査対象とする  
2010.4～ 全ての宿泊施設を調査対象とする

資料：観光庁「平成25年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

インバウンドに対する取り組みを強化しており、それが背景となって、オーストラリアからのスキー客の増加や台湾からの観光客における北アルプス・立山黒部アルペンルートに対する人気の高まりなどが見られた。これが宿泊者の増加に結び付いたのではないかの分析がなされている。

具体的な取り組みとしては、県庁は中国・台湾などに職員らを派遣して県内観光地を紹介するとともに、現地から旅行会社を招いて県内の案内。一方、民間事業者においては、「軽井沢プリンスホテル」などの宿泊施設側が受け入れ態勢を整える他、アルピコグループがタイに、長野電鉄がシンガポールに誘客拠点を開設するなど、各種取り組みが活発化したことなどが理由として挙げられている。

(2) 主要観光地の動向

●高山

○飛騨地域の地酒および酒蔵を生かした取り組みの強化

飛騨地域では、近年飛騨の地酒および酒蔵を生かした観光の取り組みが活発化している。

13年4月には、高山市、下呂市、飛騨市の三市と白川村、各観光協会と飛騨酒造組合から構成される「飛騨地酒ツーリズム協議会」が設立された。この「飛騨地酒ツーリズム」とは、豊かな山国の水の恵みと米、そして飛騨人が紡いできた歴史と文化から生まれる飛騨の地酒を、最も飛騨らしいシンボリックな観光資源と捉えてそれらを全国に発信する運動

である。目的は①飛騨地方の歴史・地酒文化を広め、全国発信していく、②地酒文化を五感で体感する旅行商品を開発し、旅行者増を目指す、③飛騨の地酒ブランドを高めつつ、日本酒販売増を目指す、④飛騨地方のさらなる地域活性化へ、の四つである。

この目的のもと、例えば、13年10月には「飛騨地酒ツーリズム検証会イン東京」が開催された。飛騨の地酒を通じた観光魅力が首都圏においても発信された。また、13年11月には、飛騨の地酒を学ぶ「飛騨地酒大学」が開催された。当地域では、これまで各酒造単位、地域単位での取り組みはあったが、飛騨地域一体となった取り組みは進んでいなかった。しかし、本協議会が設立され、観光庁の「官民協働した魅力ある観光地の再建・強化事業」に採択されたことで、先に述べたような各種取り組みが具体化されていった。

当地域では、「飛騨地酒ツーリズム協議会」設立以前においても、地酒および酒蔵に関する長い取り組みの歴史がある。75年より高山市内で実施されている「酒蔵めぐり」は、14年度に第40回を迎えた（14年1月17日～2月27日）。市内にある酒蔵を1週間交代で公開するもので、公開中の造り酒屋を酒蔵ガイドが案内し、普段入ることができない場所も見学することができる。その他、高山市観光連絡協議会、飛騨・高山観光コンベンション協会主催のもとで、飛騨地域の日本酒の蔵元が一堂に会して試飲会を開催する新たなイベント「新春飛騨の蔵元 勢ぞろい!!」（第1回は13年2月、第2回は14年2月）が飛騨高山まちの博物館で開催された。当会では、日本酒の簡単なカクテルの提案と試飲が行われ、好評を得ている。

### ●金沢

#### ○新幹線開業プロモーション・イベント実施計画の策定

金沢市では、15年に開業する北陸新幹線金沢駅の開業に向けて、「新幹線開業プロモーション・イベント実施計画」（金沢市、13年3月）を策定した。当計画は、13年度～15年度（開業の前年度～翌年度）を計画期間としており、開業効果を最大限に引き出すことを目的としている。内容は、首都圏からの交流人口の拡大のための「プロモーションの強化」とおもてなしの気運醸成など「受入環境の整備」の二つの施策のもと、七つの重点施策から構成されている（表IV-4-1）。開業プロモーションは計画期間終了後の17年度までを期間としていること、開業1年後に北海道新幹線の新青森～新函館北斗間の開業を控え、逐次、新規事業を追加することなど、各種工夫を凝らしながら計画の進捗を管理していくとされている点は注目に値する。

#### ○北陸飛騨3つ星街道の取り組み

世界遺産や3つ星観光地といった我が国屈指の観光資源を有する金沢市、高山市、南砺市、白川村が北陸新幹線金沢開業を契機として、圏域全体の魅力向上及び観光客の誘客促進に向けて官民一体となって取り組むことを目的として、「北陸飛騨3つ星街道誘客推進協議会」を13年2月に設立した。広域観光における連携や情報発信、誘客活動などを主な事業としており、14年3月には、専用のホームページを開設した。ホームページでは、地域の見どころやモデルプラン、アクセス方法などを紹介している。

表IV-4-1 開業効果を最大限に引き出すための7施策

区分	施策	内容
プロモーションの強化	首都圏における総合的プロモーションの展開	金沢の強みの発信とともに、危惧されるマイナス効果を解消する。
	滞在型観光の促進	日帰り客の増加懸念を払拭し、宿泊需要を拡大する。
	リピーター拡大に向けた展開強化	開業効果を持続させ、何度でも訪れたいとなるまちをめざす。
	都市間交流・連携によるプロモーションの推進	都市間連携により、エリアとして売り込み、相乗効果を図る。
受入環境の整備	開業気運の醸成と開業記念イベントの開催	市民意識を高め、おもてなしの気運醸成を図る。
	おもてなし環境の整備	来街者が便利に移動でき、快適に楽しんでもらえるよう環境を整備する。
	ICTを活用した情報発信の充実強化	タイムリーな情報収集を可能とするICTを活用する。

資料：「新幹線開業プロモーション・イベント実施計画」をもとに（公財）日本交通公社作成

### ●松本

#### ○レストラン「ヒカリヤ」の東京進出

歴史的建築物「光屋」をリノベーションし、日本の伝統と西洋の文化の両方を併せ持つ松本市内のレストラン「ヒカリヤ」が、日本郵便が初めて手掛ける商業施設KITTEに「信州松本ヒカリヤ」として進出した。全国各地から懐かしさや温もりを感じさせる話題の飲食店が集合した5階の10軒の一つとして営業を行っている。有機野菜や地鶏、卵などの信州の地産食材を使用して、素材を最も美味しく味わえる料理法で提供。地域が有する魅力や技術を核に、地域外に進出・評価されることも重要である。

### ●伊豆

#### ○「伊豆半島グランドデザイン」の策定と「美しい伊豆創造センター（仮称）」の設立に向けた準備

沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町の首長から構成される「伊豆半島7市6町首長会議」は、伊豆半島の将来像を提示する「伊豆半島グランドデザイン」を13年4月に策定した。伊豆を一体的に捉えた長期的視点による地域づくりの方向性を提示するとともに、短期・中期的な課題を解決し、地域の振興を図るための戦略を構築することで、「地域の誇りと世界のなかで輝き続ける伊豆の未来を創造すること」を目的としている。さまざまな機会・機能を集約して、環境、営み、人の3面で「美しい半島」にさらに磨きをかけ、伊豆を世界ブランドとして確立・発信し、伊豆の存在感を高めるための戦略として、以下七つを設定（①伊豆半島ジオパークプロジェクトの推進、②地域愛、地域ロイヤリティの醸成と向上、③各市町の美しいまちづくりの推進、④美しさを阻害するものの戦略的排除、⑤官民の美化活動の活性化・広域化、⑥美しさに関係する産業の集積、⑦国際的な健康保養都市づくり）。

14年5月の協議会においては、本ランドデザインを推進するに当たり、観光をはじめ、既存の各種協議会の持つ機能を集約し、伊豆半島地域独自の新たな推進機関を目指す「美しい伊豆創造センター」（仮称）の設立に向け、積極的に準備組織に参画することが事業計画のなかに盛り込まれた。半島単位の取り組みとして今後が注目される。

(3) 注目すべきトピック

●静岡の茶草場農法の世界農業遺産への登録

世界農業遺産 (Globally Important Agricultural Heritage Systems (GIAHS)、ジアス) は、02年に食料の安定確保を目指す国際組織「国際連合食糧農業機関」(FAO、本部はイタリア・ローマ) によって開始されたプロジェクトで、次世代に継承すべき重要な伝統的農業 (林業、水産業を含む) や、生物多様性、農業景観をシステムとして評価し、認定するものである。

「静岡の茶草場 (ちゃくさば) 農法」は、秋冬期に茶園周辺のススキやササなどの草を刈り茶園に敷く、伝統的な農法である。その主な実施区域である4市1町 (掛川市、菊川市、島田市、牧之原市および川根本町) の「茶園」は計約9,640ヘクタール、「茶草場」は、掛川市内で約130ヘクタール、県中部には計約300ヘクタールあるという。

4市1町は、推進協議会を12年10月に設立し、県の支援・推薦のもと、世界農業遺産への認定申請を行っていた。13年5月に石川県七尾市で開催された「世界農業遺産 (GIAHS) 国際会議」において、熊本県の「阿蘇の草原の維持と持続的農業」、大分県の「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」と共に正式に「世界農業遺産」に認定された。11年6月に認定された、新潟県の「トキと共生する佐渡の里山」、石川県の「能登の里山里海」の二つと併せて、我が国では五つの地域が認定されていることとなった。

●山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり

長野県では、しあわせ信州創造プラン (長野県総合5か年計画) および長野県観光振興基本計画 [2013~2017] において「山岳や高原、美しい景観、独自の伝統・文化などの長野県の強みを活かし、世界水準の山岳高原観光地を形成すること」を目標の一つに掲げ、滞在型の観光地づくりに取り組んでいる。目標達成に向けて実施内容、実施主体、実施時期を明らかにし、今後の観光地づくりを進めるための基礎資料を整備することを目的として、13年度に「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり研究」を設立。計6回の研究会を行い、「大町市、白馬村、小谷村」「木曾町」「飯山市」を中心とする「信越9市町村」の3エリアは重点支援地域に位置づけられた。当エリアでは、14年度中に重点地域支援ビジョンの策定等を行う予定となっている。

●観光宿泊施設改装事業補助金の創設

長野県茅野市では、13年度に市内のホテル・旅館が美観を保つための改装に対する「観光宿泊施設改装事業補助金」制度を創設した。補助の対象は、旅館業の許可を受けて10年以上営業している施設であるが、観光客の宿泊受け入れを主な目的としていない施設 (保養所やラブホテル、下宿など) は対

象から除外される。補助の内容は、固定資産評価の対象とならない (内壁、天井材、床材など) や外装 (外壁、屋根材、ドア、窓など) の更新などで、美観を保つための改装経費が300万円以上になる場合に、経費の10分の1以内を、300万円を上限として補助する。備品、電気、機械、給排水設備などの経費は除外される。13年度一般会計当初予算案には、補助金1,500万円が計上された。

●上杉謙信公の聖地として春日山を活かす観光プランの策定

新潟県上越市では、北陸新幹線開業に向けて上越市第四次観光振興5か年計画 (上越市、11年5月) で観光振興重点地区に指定されている「春日山城跡」を演出すべく、(公社) 上越観光コンベンション協会と上越商工会議所が共同で「謙信公・聖地 (フィールド・ミュージアム) 構想」を策定した。「謙信公の魂に会える! 聖地・春日山」をコンセプトに、その具体化に向けて六つの施策が掲げられている (表IV-4-2)。市や住民と連携し、15年の新幹線開業までに8事業の実現を、18年までに24事業の実現を目指す。

13年6月には、北陸新幹線「上越妙高」駅と駅名も確定したことから、更なる取り組みが期待される。

表IV-4-2 構想の体系

コンセプト	「謙信公の魂に会える! 聖地・春日山」
考え方	1. 春日山城跡を通じて上杉謙信公を身近に感じられるようにする 2. 春日山城跡の保安全管理と地域経済に資する観光振興を行う 3. 観光客の一連の滞在活動 (食事、移動、休憩等) を支える環境を整える
施策	1. 春日山城跡の観光魅力の増進 2. 春日山周辺における観光拠点の整備、拡充 3. 春日山周辺の情報提供・滞在環境の整備 4. 春日山城跡への交通アクセスの改善 5. 地域資源を用いた物産品・食の開発と提供 6. 地域内外との連携による観光客の受入れ

資料: 「謙信公・聖地 (フィールド・ミュージアム) 構想」をもとに (公財) 日本交通公社作成

●北陸初となるアウトレットモール開発の着手

北陸三県において、初めてのアウトレットモールの開発が13年11月に三井不動産株式会社 (東京) によって発表された。開発地は、富山県小矢部市が国道8号沿いに造成する東部産業団地で、北陸新幹線が金沢まで開業する15年3月ごろのオープンを目指して、14年4月より工事が着手されている。

●伝統工芸担い手作品購入促進事業

北陸新幹線金沢開業を見据え、加賀市では、市内に在住し、または市内事業所で制作活動を行う伝統工芸産業の担い手が制作した伝統的工芸品 (九谷焼および山中漆器) を購入する市内の飲食店や宿泊施設に対して、購入費の一部を助成している。

対象は、市内で飲食店または宿泊施設を営む個人または法人で、市税などの滞納がない者。対象となる伝統的工芸品は、制作工程の2分の1以上の割合を、50歳未満の伝統工芸

産業の担い手が制作した伝統的工芸品（九谷焼または山中漆器）であって、飲食を提供する際に使用されるものであり、1点当たりの価格は5万円（税込み）以下、総額が10万円以上（税込み）のものに限定している。山中漆器については、木製漆器に限っており、助成金の額は、50万円を上限とし、助成対象経費の2分の1以内とされている。12年度は11件、13年度は7件が採択された。14年度も本助成事業は継続されており、2件程度の採択とされている。

#### ●あわら温泉における施設整備

あわら温泉では、14年4月にえちぜん鉄道あわら湯のまち駅前前の「あわら温泉湯のまち広場」（藤野巖九郎記念館、伝統芸能館、芝生広場が整備）内に源泉かけ流しの足湯「芦湯」が整備された。13年12月より建設が開始され、14年4月に開湯。総事業費は約1億8,000万円であった。

当温泉およびあわら市は、12年10月には「都市再生整備計画 あわら温泉地区」を策定。また、13年3月には「あわら温泉地区 観光まちづくり計画～温泉情緒あふれる華やぎのまちづくり～」（あわら市）を策定している。

当市では、15年春の北陸新幹線金沢開業および舞鶴若狭自動車道全線開通を前に、温泉街の修景整備をはじめとするまちなみ整備を行うことにより、福井県随一の温泉宿泊拠点にふさわしい温泉情緒と華やぎにあふれる魅力的な観光地づくりを目指している。温泉街の空間的魅力向上に向けて取り組む当地域の動きは、他の地域にとっても参考となるだろう。

#### ●白川村による外部資本のホテル誘致と民宿、旅館の懸念

世界文化遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の一つが位置する白川村は、リゾートホテル誘致を目的に、13年に地域外資本（共立メンテナンス）の企業と交渉などを進めた。既存の宿泊施設（旅館、民宿）と客層が重ならない業態であること、観光客の多様なニーズに応えられるようになることなどをその理由としている。

候補地として挙げられたのは、合掌造りのある荻町集落から約2km離れた飯島地区（5月時点）、約3km離れた大枚地区（7月時点）である。

同村は、約40軒の宿泊施設があり、約600人の収容力を擁しているが、事業者の高齢化により安定的かつ継続的に受け入れできるかが危惧されているという。こうした状況を受けて、ホテル誘致が行われ、同村の景観に配慮した平屋と二階建て、客室数40室、収容力約100人、1泊二万円前後のホテルが構想されることとなった。地元から従業員として30名程度を雇用することから歓迎する声もあるが、既存の宿泊施設の経営への影響を懸念する声もあり、今後の展開が見守られる。

#### ●「長良川中流域における岐阜の文化的景観」の選定と地域の動き

「長良川中流域における岐阜の文化的景観」が14年3月18日付で国の重要文化的景観に選定された。長良川を中心とした鵜飼漁や問屋業などによって形成された文化的景観および岐阜城下町の構造を基盤に発展形成された岐阜町の文化的景観が重層したもので、我が国における生活または生業

の理解のため欠くことのできないものと評価されてのことである。

当地域では、10年より長良川温泉泊覧会（通称：長良川おんぱく）が開催されており、鵜飼師の家などの案内もプログラムに含まれている。また、こうした流れのなかで、12年8月には“長良川の鵜飼い”の価値を分かりやすく紹介・情報発信する場「長良川うかいミュージアムー岐阜市長良川鵜飼伝承館ー」がオープンした。さらに、一部の近隣宿泊施設では、鵜飼いをモチーフとした内装の新客室を設けるなどしている。地域固有の文化が公共空間、民間施設にまで徐々に広がってきている。

14年には、伝統漁法鵜飼いや国内有数のアユの生産地で知られる長良川流域の文化や産業を、「清流長良川の鮎」として世界農業遺産への登録を目指そうと協議会を設立する動きもあり、今後も継続的な取り組みが見込まれる。

#### ●「食」を活用した岐阜まんぷくジャーニーの開催

岐阜県では、B級ご当地グルメや郷土料理といった「食」を活用した地域おこし団体の支援のため、13年度に「食による地域おこし団体応援事業」を実施した。

当事業では、14年1月末から2月にかけて、30の地域おこし団体が「食」で地域の魅力を発信する体験交流型イベント「岐阜まんぷくジャーニー」を開催。当県美濃地方における、木曾三川の豊かな水に育まれ恵まれたおいしい食材をPRした。

#### ●下呂市におけるG-STAYキックオフイベントの開催

下呂市では、「下呂市観光計画」（10-14年度）の集大成として、下呂市での滞在の魅力をより一層感じてもらうための取り組み「G-STAY（ジーステイ）」を観光協会や観光事業者などと協力しながら進めている。

具体的には、「G-STAY」では下呂市の地域性豊かな体験プログラムやサービスなどを集約し、より一層の魅力の発信と満足度の向上を目指している。市内での滞在時間を延ばし、地域への経済効果を生み出すこと、また、観光客のみならず市民の参加も想定していること、観光客やプログラム主催者（サービスなどの提供者）との交流を通じて、地域の魅力を再確認することを目的としている。

下呂市市制施行10周年記念市内ツアーとして、14年3月には、①げろぐるトラベル「下呂のいいとこ見つけ旅」、②「普段着きもの」の着付け体験「姫まつり」、③温泉街で土雛めぐり「プチがんどうち体験」の三つを実施した。7月には、げろぐるトラベル第2弾も開催される予定となっており、4町1村（萩原町、小坂町、下呂町、金山町、馬瀬村）の合併市における取り組みとして注目される。

#### ●名古屋港ふ頭テーマパーク開業に向けた動き

名古屋市は14年6月に、レゴ社（デンマークの玩具メーカー）のテーマパークを運営する英国の企業「マーリン・エンターテイメンツ」と、同市港区金城ふ頭に「レゴランド」を建設することで正式合意した。同企業によると、名古屋のレゴランドは開園すると世界で8カ所目となる。

17年4月から6月の開園を目指して、来年より建設が開始される。総事業費は約320億円、金城ふ頭にある土地9.3ヘクタールを市などが有償で貸与する。市は年間180万人の来場

者と、観光客の増加などによる約640億円の経済効果を見込んでいる。

#### ●「B-1グランプリin豊川」の開催

愛知県豊川市で、「第8回ご当地グルメでまちおこしの祭典! B-1グランプリin豊川」(13年11月)が開催された。豊川いなり大駐車場会場をはじめ豊川稲荷周辺および豊川市野球場周辺の全6会場が設置され、過去最多の64団体が出店し、過去2番目になる58万1,000人が来場した(2日間合計)。

来場者アンケート結果によると、年齢別では20～40歳代、性別では女性がやや多い。豊川市以外からの来場者は、73.8%。1組当たりの平均人数は、約3.9人。来場者は、複数の会場を回遊。平均的な回遊会場数は、2.6会場。来場者の4人に3人は、本開催を好評価。本開催による経済波及効果は、35億3,277万円と推計。東三河地区への経済波及効果は、20億9,542万円(参考数値)と推計されている。

(後藤健太郎)